

平成 20 年 4 月 30 日

各 位



北海道ラグビーフットボール協会  
理事長 植田 健二

### 新役員就任のご挨拶

拝啓

新緑の候、時下ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

日頃から、北海道ラグビーフットボール協会の活動に御支援御協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、4月20日の評議員会並びに理事会におきまして、下記のとおり新役員が決定されました。平成19年10月に杉目泰郎会長が逝去され会長代行を務めてきました簀口一光副会長が会長に就任しました。副会長は、函館支部米田國三郎支部長が就任しました。また、理事長は植田健二が重任しました。

今後役員一同決意を新たに業務に精励致す所存でございますので今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、略儀ながら書中をもちまして御挨拶申し上げます。

なお、新会長、新副会長の紹介を別紙に載せましたのでご覧ください。

敬具

記

会 長	簀口 一光
副会長	米田 國三郎
理事長	植田 健二
藤江 正	は副会長を退任し顧問に就任しました

## 菘口 一光 (みのぐち かずみつ) 昭和7年6月25日生(75歳)

常呂郡端野町生まれ(現北見市)

### 略 歴

- ・ 北見北斗高校、明治大学商学部卒
- ・ 高校教員 38年間勤務 最後は北見緑陵高校校長で定年退職
- ・ 退職後 北海学園北見大学講師、北見情報ビジネス専門学校講師 74歳まで

### ラグビー歴

- ・ 北見中学3年(旧制)よりラグビー始める
- ・ 北見北斗高校では、1年よりレギュラー、全国大会2度(共に全国3位)、国体2度出場(3位1回)
- ・ 明治大学では、2年よりレギュラー、4年では関東大学リーグ優勝、学生東西対抗戦に東軍として出場、全日本3地域対抗に全関東に選抜され出場
- ・ 大学卒業後、オーストラリア学生選抜戦に、全明治及び全日本として対戦、またニュージーランドのオールブラックスと全明治として対戦
- ・ 国体出場11回、70歳で北海道不惑大会まで56年間プレーする

### 高校ラグビー指導

- ・ 大学出て母校北見北斗高校17年間監督
- ・ その間全国大会出場10回(全国準優勝2回、3位1回)
- ・ 国体単独出場9回(2位1回、3位5回)

### 協会役員

- ・ 昭和30年～平成12年 理 事
- ・ 平成13年～平成19年 副会長
- ・ 平成20年～ 会 長
- ・ 平成5年～ 北見市ラグビー協会長

### 就任の挨拶

杉目前会長の後任の菘口です。北海道ラグビー界の発展充実のために微力を尽くしてまいります。特に最大の課題であるラグビー人口増加を、理事をはじめ役員と力を合わせて進めてまいります。

そのためには、小・中学生の指導の普及、今最も力を入れなければならない高校生部員の勧誘を行ってまいります。

北海道協会の組織の強化、さらには指導者のラグビー取り組みの情熱ある姿勢に期待し、楽しいラグビーの発展に力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

## 米田 國三郎 (よねた くにさぶろう) 1942年生 65才 水産学博士

---

### 略 歴

- ・ 1965年北大水産学部卒
- ・ 1966年4月～2006年3月 北大水産学部勤務

### ラグビー歴

- ・ 函館ひやみず倶楽部所属 (1983年～現在)

### ラグビー指導

- ・ 函館ラグビークスール 指導員 (1981年～現在)
- ・ 函館ラグビースクール 副校長 (1997年～2005年)

### 協会役員

- ・ 函館市ラグビーフットボール協会 理事 (1984年～1999年)
- ・ 函館市ラグビーフットボール協会 理事長 (1992年～1994年)
- ・ 函館市ラグビーフットボール協会 副会長 (2000年～2003年)
- ・ 函館市ラグビーフットボール協会 会長  
兼、北海道ラグビーフットボール協会 函館支部長 (2006年～現在)

### 抱 負

平成20年度第1回評議員会での決算報告のなかで財政悪化が指摘されました。チーム及び登録者数の減少が大きな要因の一つであることが報告されました。少子化が進み、全ての競技団体の参加者が減少している中で、ラグビー人口を増やす事は難しく、現状維持すら危うい状態であると言えるでしょう。協会が公表した、チーム・個人登録者数を見ますと、札幌、北見、函館の3地区での減少が目立ち、危惧されるところです。

このような現状を踏まえて、将来を考える時、ラグビースクールと中学校の存在は大きいと思われます。平成19年は605人が参加し、6年前より150人程増えていることは何よりだと思います。13年前に社会人オール函館を編成してオーストラリアへ遠征した時、グラウンドで小さな子供達がたくみにラグビーボールを操っていたことが印象に残っております。小さい時からボールに馴れ親しむことが大切だと思いました。そしてラグビーは芝の上を走り回り(汚くない)、基本プレイを大切に(危険でない)、楽しいゲーム(きつくない)であることをスクール生徒と保護者に十分に理解してもらう努力が必要であると思います。中学校の部活でも同じ事が言えると思います。困難を伴うでしょうが、底辺である小中学生の参加を促す働きかけがもっともっと各地区で行なわれる事に期待致します。それが高校へ繋がり、更に大学、社会人へと繋がって行くと考えるのは楽観的かもしれませんが。

最近、タグラグビーの普及が進んでおりますが、函館では小学校単位で行なっているのは数校にすぎず、それも担当の先生の好意によるところが大きく、あまり広がりを見せておりません。楕円球の面白さ、ラグビーの楽しさを宣伝する為にも、各地区が小学校に働きかけて普及活動を広げて欲しいと思っております。今、女子高生がタグラグビーを部活の一環として取り組んでいます。この生徒が将来結婚し、子供ができた時に、ラグビースクールへ入校してくれることを願っているのですが、同様な意味から女子ラ

グビーの普及も重要であると考えられます。

何れにしる各地区がラグビー人口増へどのような方法があるのか考えて努力して行かなければならないでしょう。そのための忌憚のないご意見を頂けたら有り難いと思っております。